

国立研究開発法人水産研究・教育機構  
令和2年度第4回契約監視委員会議事概要

1. 日時 令和3年2月26日（金） 14:00～16:00
2. 場所 神奈川県横浜市神奈川区新浦島町1-1-25  
テクノウェイブ100 第2会議室 ※ Web会議システムを併用して開催
3. 出席者 委員長 蒲池 孝一 公認会計士  
委員 岡部 伸康 (株) 神奈川新聞社 統合編集局長  
委員 星原 正明 弁護士  
委員 森 哲哉 公認会計士  
委員 鈴木 孝 (研) 水産研究・教育機構 監事  
委員 檜山 義明 (研) 水産研究・教育機構 監事  
(研) 水産研究・教育機構事務局
4. 議題 ① 令和2年度第2四半期の契約実績及び入札等に関するアンケート調査結果  
② 令和2年度第2四半期の契約の抽出案件  
③ その他

5. 議事概要

・議題① 令和2年度第2四半期の契約実績及び入札等に関するアンケート調査結果

令和2年度第2四半期の契約実績、競争性のない随意契約及び一者応札・応募の類型別内訳、類型別の平均応札者数及び平均落札率、入札等に関するアンケート調査の結果と、それを踏まえた入札改善策などについて、事務局から資料に基づき説明があった。

主な質疑応答は、次のとおり。

○アンケート調査の結果で要望が多かった入札等の手続きの簡素化について、どのように改善を考えているのか。

→入札等の手続きの簡素化として、特に要望が多い電子入札の導入については、既に導入している他法人より情報収集を行うものとし、その他の改善策としては、入札時に提出してもらう関係書類の簡素化や、手続きに関する情報提供の方法を工夫するなど改善に向けて検討したいと考えている。

○業者からいただいた意見・要望を活用し、問題点を把握したうえで改善に向けて取り組んでいただきたい。

・議題② 令和2年度第2四半期の契約の抽出案件

令和2年度第2四半期に締結された契約の中から委員により抽出された10件の契約について、事務局から契約内容の説明があり、それぞれ審議を行った。

各案件についての主な質疑応答は、次のとおり。

(競争性のない随意契約)

国立研究開発法人水産研究・教育機構新事務所入居に伴うB工事(本部契約課)

特になし

(競争性のない随意契約)

令和2年度土佐湾くろまぐろ小型魚標識放流調査補助業務(清水拠点)

○調査場所と漁業権の関係により相手方が特定される件について、機構として統一的なあつかいになっているか。

→契約案件ごとに契約方式などを検討したうえで、個別に判断し対応している。

○個別に判断する場合は、部署によって契約方式の判断が異ならないよう配慮する必要がある。

(競争性のない随意契約)

俊鷹丸ヒープモーションクレーン点検修理業務(清水拠点)

○ヒープモーションクレーンはいつ導入したのか。

→俊鷹丸の新造時に搭載しているものであり、今年で20年経過する。

○当時は製造しているメーカーが限定されていたのか。

→当時は1社のみであった。

(一者応札・高落札率)

流速観測システム(水産技術研究所 長崎)

○一者応札の要因として、仕様により機種が限定されたとのことであるが、調達が想定された比較対象の機種数及び機種限定の要因となった性能の差異はどのくらいあったのか。

→比較対象の機種は、メーカー3社の4機種を対象として、本部の事前のレビューにおいて、機器の性能や仕様の比較、検討を行い、仕様を決定したところである。

○一者応札の要因及び改善方策の記載については、実態を適切に説明するようにはいただきたい。

○耐用年数はどのくらいか。

→正確な耐用年数は把握していないが、これまでの使用実績から10年程度は使用できることは確認している。

○システムの更新が必要になる際は、一者応札となった要因を踏まえ改善できるよう、今後、知見として活用していただきたい。

### (一者応札)

#### 国立研究開発法人水産研究・教育機構新事務所間仕切新設その他工事（本部契約課）

- 改善方策としている十分な準備期間の確保について、過去の審議案件でも多く見受けられるが、期間を確保できていない要因は何か。
- 今回の案件に関しては、事務所の移転に伴う工事であり、他にも電気工事などの工事を行っており、それらの工事を総合的に検討するとともに同時に施工する必要があったため、事前の準備に時間が必要だったことが要因である。このように個々の案件によって、特別な事情があることが要因になっていると考えている。
- 今後は、十分な準備期間を確保するために、今回の事例のように準備が必要とする案件については、時間が掛かることを認識したうえで、可能な範囲で準備を進めるなどの対応に努めていただきたい。

### (二箇年連続一者応札・高落札率)

#### 「スルメイカ稚仔調査Ⅰ」に係る用船（本部船舶管理課）

- 改善方策として、発注予定情報及び入札公告の掲載時期をできる限り早めるとしているが、調査に対応できる用船の実態から見て、有効な策なのか。
- 現状としては、用船に対応可能な業者は限られており、状況的に難しいところではあるが、発注予定情報の掲載時期を早めることや業者へのはたらきかけを行うことにより、改善の余地はあるものと考えている。
- 改善方策を検討するにあたっては、対応できる用船が限られている実態も踏まえ、実状との整合性が保てるように検討していただきたい。
- 改善方策として、対応可能な業者が限られており難しい現状と思われるが、業者への情報収集や発注予定情報を掲載するなど、改善に努める姿勢も重要であるため、引き続き努力していただきたい。

### (一者応札・高落札率)

#### 中央水産研究所ネットワーク機器更新業務（水産資源研究所 横浜）

- 一者応札の要因として、履行期間が短かったとのことであるが、履行期間の設定はどのように考えていたのか。
- 農林水産研究情報総合センター（AFFRIT）との調整により、仕様が決定したのが6月であり、更新の期限は9月中として決定されていた。
- このような状況で、入札公告期間、履行期間をできる限り長く確保することに努めたところであるが、結果的に対応できなかった業者としては、履行期間が短かったとのことであった。
- 特殊な状況は理解できるが、業者としては、システムの設計から完成に至るまでを社内で検討し、応札の判断をするため、相当な時間を要することになる。
- 今後、システムを更新する際は、その点を踏まえ適切なスケジュールを設定できるよう努

めていただきたい。

○予定価格の積算方法について、資料の作成と内容の説明は、わかりやすく説明できるように対応していただきたい。

#### (一者応札・高落札率)

##### 陽光丸 5000m観測ウインチワイヤーケーブル換装業務 (水産技術研究所 長崎)

○ワイヤーケーブルの2700m程度まで減少した状態で換装しているが、早い段階で換装できなかったのか。

→ワイヤーケーブルの納期は5ヶ月程度を要すること、また、船舶が長期停泊中に実施することが必要であったため、スケジュールを調整した結果、今回の時期に換装することになった。

○ワイヤーケーブルの点検を調査航海ごとに行っているとのことであるが、換装を判断するような定期点検の仕組みはないのか。

→今のところ仕組みはない。

#### (二箇年連続一者応札・落札率 100%)

##### イカナゴ0歳魚魚体測定および耳石解析業務 (廿日市拠点)

○耳石解析の委託業務は、いつから実施し、いつまで継続する予定なのか。電子顕微鏡の必要性について検証できるデータは、同時に収集されているのか。一般競争入札としているが、業者が異なることが結果に影響する懸念は無いのか。

→委託業務の開始時期と継続予定については、昨年度から実施しており、今後の結果に応じて、重要性が高ければ継続することになると思われる。

電子顕微鏡の仕様として、電子顕微鏡による解析が必要であると理解している。

一般競争入札により業者が変わった場合の解析データの精度については、現在のところ精度管理に問題があるとは考えていないが、確認したうえで必要に応じて契約方式を検討したい。

○二箇年連続一者応札の要因として、二箇年とも履行期間が短かったことが要因なのか。若しくは電子顕微鏡による解析が要因となっているのか。

→辞退した業者に確認したところ、前回は社内でも光学顕微鏡と電子顕微鏡を扱う部署が異なっており、履行期間で業務の調整がつかなかったとのことであった。

今回は、一者応札が改善されるよう履行期間を長く確保したところであるが、結果として、他の業務と期間が重なり、対応が困難として辞退したことが要因となっている。

#### (一者応札・高落札率)

##### 操業情報自動収集装置の試作品開発業務 (水産資源研究所 横浜)

○予定価格の積算について、参考見積により市場価格を把握する場合は、価格の妥当性をよく検証したうえで積算する必要がある。説明資料の記述では誤解を招く恐れがあり、実施し

た積算方法と齟齬が生じないよう、内容を十分に精査した上で資料を作成するようお願いしたい。

・議題③ その他

事務局から、次回の令和3年度第1回は、令和2年度調達等合理化計画の自己評価についての点検と、令和3年度調達等合理化計画についての点検となり、開催時期については、5月を検討しているが、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら開催時期や開催方法の調整を進める旨の連絡があった。